

那珂市の未来をつくる 「道の駅」

生産者
インタビュー

道の駅整備課 ☎ 029-298-1111



プロフィール

(株)綿引農園

取締役 綿引 桂太氏

那珂市でトマト、ナス、アスパラガス、イチゴなどの施設野菜や水稻を中心に多角的な農業経営を展開。また、那珂市の農業の魅力を発信する「フェルミエ那珂」の会長として、次世代の担い手育成にも積極的に取り組んでいる。

現在、どんな農産物を育てていますか？

主にトマトやナスを育てていますが、最近ではカボチャにも挑戦しています。この土地の気候や土質と向き合いながら栽培するよう心がけています。

今後、道の駅ができると聞いて、どんな期待をしていますか？

地元のかただけでなく、遠方から訪れたかたにも那珂市の野菜を知ってもらえる機会が広がるのではないかと期待しています。お客さんの声を直接聞ける場が増えることで、野菜の魅力をこれまで以上に伝えられ、販売が伸びれば生産量を増やす意欲にもつながります。今後、道の駅ができれば日常的にそうした交流が生まれ、PRの幅も広がっていくと思います。

この地域で農業をする魅力は何ですか？

気候が穏やかで、水も空気もきれいで、この自然環境そのものが、農業にとって一番の資源です。

トマトなどの施設野菜の栽培に取り組んでいますが、豊富な水と太陽の恵みのおかげで、糖度や香りに違いが出ています。直売所に出荷しても、「おいしいね」と言ってもらえることが励みになっています。

地域の農業の未来についてどう考えていますか？

担い手の高齢化が進んでいますが、技術やノウハウはここにはちゃんとある。それをどう次につないでいくかが鍵だと思います。道の駅が、新しい担い手や応援してくれる人との「橋渡し」の場になるといいと思います。

将来的にチャレンジしたいことはありますか？

農業の6次化や異業種とコラボした商品開発に興味があります。例えば自分の野菜で作ったスープやピクルス。道の駅に来てくれた人が「また食べたい」と思えるような商品を届けていきたいです。農業は作るだけじゃなくて、「どう届けるか」も面白い点です。

完成後の道の駅を訪れる人たちへメッセージをお願いします。

今も私たちは那珂台地の恵みを受けて日々「おいしさ」を追求しています。3年後、道の駅で「この野菜、知ってる」と言ってもらえたらうれしいです。畑にも日々のストーリーがあります。ぜひ、そんな「育ち方」にも目を向けて、野菜を味わってもらえるとうれしいです。

▶ 今後も道の駅の情報をお伝えしていきます！